

---

## 加藤 訓子 Kuniko Kato, Percussion

音楽誌の権威グラモフォンは、「巨匠への通過儀礼もクニコには、勝利の儀式に過ぎない。」と讃し、英サンデータイムズ紙は、「力強く、繊細、根源的でエレガント、ブリリアント。」と評する。

愛知県豊橋市出身。桐朋学園大学研究科修了後に渡欧、ロッテルダム音楽院を首席で卒業。三善晃、武満徹、スティーヴ・ライヒやアルヴォ・ペルトをはじめ、著名な作曲家や演奏家と数多く共演。古典から現代作品まで幅広いレパートリーを持ち、優れた音楽的洞察力と表現力、卓越した身体能力が創り上げる演奏スタイルが高く評価されている。サイトウキネンオーケストラ、アンサンブル・イクトウス（ベルギー）、アンサンブル・ノマドなど内外のグループへ参加後、ソロ活動へフォーカスする。2011年 スティーヴ・ライヒのカウンターポイント代表作を世界で初めて打楽器へ編曲したソロアルバム「kuniko plays reich」を英リンレコーズより世界同時発売。ライブ版公演は、サントリー芸術財団より第十二回佐治敬三賞受賞。2013年 第二作目としてリリースしたアルバム「CANTUS」は、エストニアの巨匠アルヴォ・ペルトの代表作4曲を同氏監修の下編曲、第26回 MPCJ（ミュージックペンクラブジャパン）音楽賞最優秀録音賞受賞。2015年ヤニス・クセナキスの大作「プレイアデス」とソロ作品「ルボン」をフィーチャーしたアルバム「IX」をグローバルリリース。日本レコードアカデミー賞録音部門及び現代音楽部門にダブルノミネートされる。2017年ソロアルバム第4弾「B A C H」をリリース。リンレコーズ2017年間ベストアルバムへ選出。国内では、第10回CDショップ大賞2018（クラシック部門）受賞。2018年愛知県芸術劇場のコミッションにてダンス作品「DOPE」の音楽監督を担当、スティーヴ・ライヒ「ドラミング」を世界初のライブソロ+テープで初演。平成30年「第73回」文化庁芸術祭優秀賞を受賞。2016年より若手次世代人材育成を目的にアーティストインキュベーション・プロジェクト inc. を始動、芸術監督を務める。2017年より特定非営利活動法人芸術文化ワークスの代表を務め、幅広い視点で地域の芸術文化振興に寄与する。

英国スコットランドの高音質で知られる世界的レーベル「LINN」からCDを出す唯一の日本人アーティスト。パール楽器・アダムス社グローバルエンドーサー。

豊橋市特別ふるさと大使、米国在住。

<https://kuniko-kato.net> <https://npo-artsworks.org>

(令和2年8月現在・転載禁止)